

ISO 認証機関

ASR エイエスアール 通信

<https://www.armsr.co.jp/>

2024December
VOL.45



- エイエスアールのお客様紹介 p.2-3
東西電気産業株式会社様
- ISO9001規格要求事項の勘違い Vol.1 p.4-5
- ASR博士の環境レポート p.6
「マネジメントシステム規格への気候変動に係る追補版発行」について
- 企業向けISO関連教育サービス p.7
- 組織様向け情報 p.8

東西電気産業株式会社様

(大阪府大阪市)

今回は、東西電気産業株式会社様をご紹介致します。

東西電気産業株式会社様は大阪・なんばに本店を構え、半世紀以上にわたり照明業界で活躍している組織様です。白熱電球からUVランプ、LEDなど、時代の変化に合わせて常に新しい光源と照明システムを追求されており、「照明ワンストップのTOZAI」としてお客様に最適な「光りのソリューション」を提供し続けておられます。

代表取締役社長の神保 紘史様にお話を伺いました。



代表取締役社長 神保 紘史 様

ーまずは御社の概要についてお話いただけますか。

弊社は1951年の設立で今年74年目を迎える各種光源、照明関連機器全般を取り扱う企業です。

もともとは電球の卸売会社からスタートしたのですが、ご存じの通り、電球は大きさも形もばらばらな商品です。工場で電球を作るにしても、サイズや形ごとに作る機械が違ってしまうので、この大きさの電球ならこちらの工場で、この形ならばこちらの機械でと生産場所が異なっていました。

創業者である私の祖父がそこに目をつけて、いろいろな工場で弊社のマークを付けた電球を製造してもらい、小さいものから大きなものまですべてのラインナップの電球が弊社で買えますよ、という商売を始めました。当時は電球の工場の多くが東京にあったのですが、それらの工場の製品を集めて大阪で売る、というスタイルでした。

現在は電球だけではなくLEDをはじめとしたあらゆる光源を取り扱っております。

ーお客様はどのような業態が多いのでしょうか。

いわゆる流通業としての電材関係の商社様が約半分を占めています。これは、我々が卸した電球などが、各商社様を通じて工事業者様に届けられたり、ホームセンターなどで商品として並び一般消費者様に届いたりする形です。残り

半分はメーカー様での機器組込用の光源や、舞台・イベントなどで使用していただく照明関連機器が占めています。

商品構成としては我々が従来光源と呼んでいる白熱電球、ハロゲン球、ソケットなどがまだ半分弱ありますが、ここ数年で電子制御機器の電源やLED製品などがどんどん伸びてきている感じです。

ーISO関連のお話を伺います。2003年にISO14001を取得されておりますが、そもそも取得のきっかけはどのようなことだったのでしょうか。

もともとは私共の製品を組み込んでいただいているメーカー様が有害物質管理に非常に力を入れておられるというのを伺って、我々としても何かできることがあるのではないかと考えたところが始まりです。

ISO14001を取得することで環境問題にきちんと取り組んでいる姿勢を社内外にPR出来る点や、世の中の流れも環境問題への関心が高まっていたのも取得のきっかけになったと思います。



一取得されて以来、20年以上維持されているということですが、維持するうえで大事にしていることはございますか。

特に気にしているのは、ISO14001を維持することを意識して仕事をするのではなく、普通に仕事をしていれば自然と



ISO14001が順守できるという状況にすることです。

取得した当初は消費電力を下げよう、とか紙の資料を減らそう、という目標を立てて活動をしていましたが、そういったわかりやすい活動だけではなく、我々の事業そのものがISO14001に直結しているという意識をもって、事業を続けていくことで環境が良くなっていく、そういう仕組みづくりをしていくということを大切にしています。

また、私共の仕入先や取引先の企業様でも環境に対する意識が高まっており、そんな中でISO14001を取得しているということで信頼していただいている面もあるかと思っています。

一御社のLED製品の売り上げが伸びているのも世の中全体に対して環境への貢献になっているわけですね。

はい、その通りです。やはりもう白熱電球やハロゲンといった従来光源は、発光効率や技術の進歩の面から見て、この先どんどんLEDに置き換わっていく、これは間違いありません。環境のことを考えてもこの事業を伸ばしていくことは我々の使命だと思っています。

一社会貢献という面では日本赤十字社への寄付を続けていらっしゃるそうですね。

初代のころから継続しており、2010年には紺綬褒章をいただきました。大きな金額ではありませんが社会貢献の気持ちは途切れさせずにこれからも続けていきたいと考えております。

一地域社会への参加という点ではいかがですか。

本店の近くに難波八阪神社という観光名所があるのですが、こちらの夏祭りには毎年協賛させていただいています。こういった活動を通じて地元へも貢献していければと考えています。

一会社として目指している姿についてお伺いできますか。

一番大事にしていきたいのは社員全員が心一つにして、同じ方向を向いて、同じ目標を持ってやっていくということです。そのために社内でのコミュニケーションが取りやすい環境づくりにも力を入れていきたいと考えています。

私共の会社のミッションとして「“あった！”をつなぎ、とどける。」という言葉掲げているのですが、「時代にあった！」「お客様にあった！」「ここにあった！」といろいろな「あった！」をお客様に届けることを目指しています。その中で生まれるビジョンやバリューを社員全員で共有していくことが会社を発展させていくことになると考えています。

我々は拠点が大阪と東京にあるのですが、その距離を感じることなく全員でチームとして動けるようにすることで、お客様へ最適なソリューションを素早くいつでも提供できる体制になってきています。

一今後、どのような製品展開を考えていらっしゃいますか。

一つは自社ブランド製品を増やしていくことです。去年はフィラメントLED電球という製品を出していますが来年早々にまた新製品を出す予定です。こうして自社ブランドを強化していくことでお客様に喜んで頂ける製品をご提供し続けていきたいと考えています。

もう一つは、蛍光灯や電球からLEDが変わっていくことで照明は本当に多種多様になっています。これだけ商品が増えてくると、お客様も何を選んだらいいのかわからなくなってしまう場面もあると思います。そういう時に自社製品だけではなく様々なメーカー様の商品を組み合わせでご提案し、ソリューションとしてお客様の要望をかなえていきたいと考えています。「照明ワンストップ」と我々は言っているのですが、お客様の様々な思いを実現できるようにして、弊社ならではの付加価値のあるサービスを提供できるよう成長を続けていきたいと思っています。

照明のエキスパートとしての誇りとともに長年築き上げてきたパートナー企業との信頼関係を強みに未来を照らしていく姿勢がうかがえる組織様でした。ありがとうございました。



当コーナーでは、弊社の登録企業様のISO活動や事業をご紹介します。事業への思いや取組みなどについて、PRしてみたい企業様は、是非、下記宛にご連絡ください。

ASR通信 事務局 E-mail: otoiwase@armsr.co.jp



ISO9001 規格要求事項の勘違い

Vol.1

1. はじめに

組織がISO 9001の要求事項を正しく理解できていないため、プロセスを効果的に運用できていない事例が中小企業に多く見受けられます。このため、特に理解不足している要求事項について、その要求事項の意図を明確にし、これに関する管理技術を明示することでISO9001の要求事項の理解を深めることを目的として、今回から新たなテーマについて解説します。

2. 「序文」の勘違いと正しい解釈

勘違い 品質マニュアルは、ISO 9001の項番と同じでなければいけない

次に示すISO 9001の序文を見るとこれが勘違いであることがわかります。

この規格は、次の事項の必要性を示すことを意図したものである。

- 様々な品質マネジメントシステムの構造を画一化する。
- 文書類をこの規格の箇条の構造と一致させる。
- この規格の特定の用語を組織内で使用する。

・構造を画一化する

⇒ISO 9001の構造に合わせたQMSを構築しなくてもよい。組織の事業運営体制に整合したQMSを構築することが大切です。

・規格の箇条の構造と一致させる

⇒品質マニュアルをISO 9001の項番通りに記載しなくてもよい。組織の事業運営は、ISO 9001の箇条の順番通りに必ずしもならない。一般的には、事業計画プロセス、製品実現プロセス、支援プロセス、評価・改善プロセスなどに基いた事業運営を行っています。

・特定の用語を組織内で使用する

⇒ISO 9001で使用している用語を組織で使用しなくてもよい。組織で使用している用語を用いてもよい。ただし、ISO 9000で定義している用語との関係は明確にすることが大切です。

なお、品質マニュアルでよく見かける問題点として次に示すものがあります。

a) 規格の要求事項に沿った構造になっている

品質マニュアルの目次が、ISO 9001の4.1～10.3の順番になっていると要求事項への対応漏れはなくなりますが、MSの機能のPDCAという視点で組織の活動を効果的に表せるでしょうか。このため、要求事項が改訂されたら全面見直しを行う必要があります。

効果的に表す方法として、プロセスフローとプロセスの概要を示す方法があり、このような品質マニュアルを作成することで組織の要員が理解しやすくなります(図1参照)。

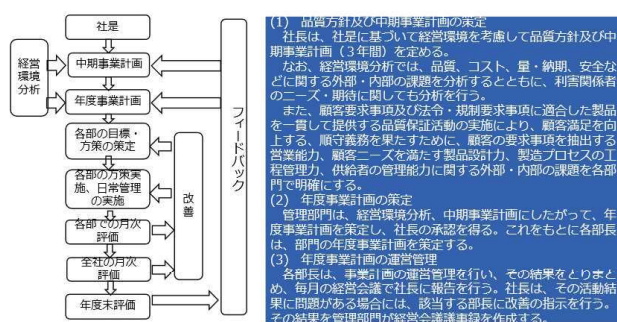


図1 事業計画プロセスの例

b) 規格の要求事項通りに記載している

品質マニュアルでISO 9001の要求事項通りに「～しなければならない」、「組織は～」などと記述しています。一方、自組織の他の規程では「～する」と記述しており、記述方法が相違しています。

c) 品質マニュアルが詳細に記載されている
これでも悪くはありませんが、品質マニュアルの改訂に伴うレビューに漏れが生じる恐れがあるので、詳細な活動は、関連規程にした方が効果的です。

勘違い プロセスアプローチが要求事項に含まれている

プロセスアプローチを採用するという考え方はありますが、規格の本文にはプロセスアプローチという用語は規定されていません。しかし、序文では次のように記載されています。

この規格は、顧客要求事項を満たすことによって顧客満足向上させるために、品質マネジメントシステムを構築し、実施し、その品質マネジメントシステムの有効性を改善する際に、プロセスアプローチを採用することを促進する。

なお、プロセスアプローチに関する要求事項は4.4で規定されています。

勘違い ISO 9001のQMSの意図した結果とは、組織の目標のことである

ISO 9001の図2(PDCAサイクルを使った規格の構造)では、QMSの意図した結果は、顧客満足と製品及びサービスになっています。したがって、ISO 9001では「QMSの意図した結果＝組織の目標」であるとは言えません。

3.「4.1 組織及びその状況の理解」の勘違いと正しい解釈

勘違い 外部及び内部の課題は、組織の目的及び戦略的な方向性に関連しているQMSについてのみ明確にすればよい

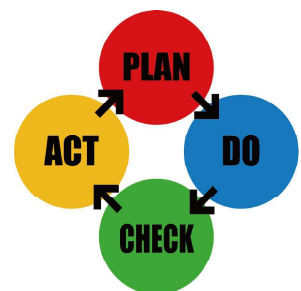
課題とは次に示すものが対象であり、これには組織にとって好ましい状況又は好ましくない状況などがあります。

- 外部の課題：市場、経済、政治、社会など自組織では解決できないもの
- 内部の課題：売上、設備、人材、IT化、苦情・クレームなど自組織で解決できるもの

4.1で明確にする外部及び内部の課題は、次に示す二つの側面を考慮する必要があります。

a) 組織の目的及び戦略的な方向性に関するもの

組織の事業に影響を与える課題（市場の拡大・縮小、人口減少、環境問題の認識向上、地球温暖化、希少資源の入手困難性、円高・円安によるコストに与える影響、政情不安定、地域紛争、顧客要求の多様化、法令規制の強化など）が該当します。



b) 品質マネジメントシステムの意図した結果を達成する組織の能力に影響を与えるもの

QMSに影響を与える課題（設備の老朽化、人材育成、社内システムの整備、QMSに関する目標未達成、異常気象に伴う納期遅れ、省エネ対策の取り組み、クレームの低減、工程内不適合の低減など）が該当します。

4.「4.2 利害関係者のニーズ及び期待」の勘違い

勘違い 密接に関連する利害関係者には、必ず株主も含まれる

密接に関連する利害関係者とは、組織が構築しているQMSに影響を与える組織又は人々のことです。したがって、QMSの運営管理に影響を与える利害関係者を明確にする必要があります。

ISO 9001では、顧客、法令・規制要求事項を提示している組織（監督官庁、認証機関など）、要員、製品・サービスの提供者、プロセスの提供者、外部からの文書化した情報を提供している組織（例：関連団体、学界等のガイドライン）が該当します。これに加えて、組織のQMSに影響を与える利害関係者が他に存在すると考える場合には、これらを明確にする必要があります。なお、株主が対象であると判断した場合にはこれを含めます。

したがって、密接に関連する利害関係者の抽出漏れをなくすためには、事業活動に影響を与える利害関係者を明確にした後に、その中からQMSに影響を与える利害関係者を特定することが効果的です。

福丸 典芳 氏

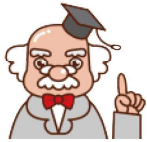
(株)福丸マネジメントテクノ代表取締役

著者紹介

日本規格協会品質マネジメントシステム国内委員会の委員を務め、ISO 9001の規格作成にも携わる。

コンサルティング業務、講演会・研修会の実施、書籍の執筆など多方面で活躍。

近著に「ISO統合マネジメントシステムの構築と内部監査の実践」がある。



「マネジメントシステム規格への 気候変動に係る追補版発行」について

1. はじめに

ISOは、すべてのマネジメントシステム（以下、MS）において2024年2月に追補1として気候変動対応に関する要求事項が追加されました。この内容とその取扱いについてISO9001を例に解説します。

2. 追補の背景と内容

ISO 9001は、ISO/IEC 専門業務用指針第2部、附属書SLに沿って作成されています。2023年6月にAppendix2（規定）に気候変動に関する改訂案が承認され、9月に改訂版が発行されました。

ISO/IAFは、共同コミュニケで、気候変動に関するロンドン宣言（気候を守るための取り組みを強化することを表明）を支持し、二つの新しい記述を既存のMS規格に追加することを決議しました。これを受けて、発行済み規格は追補（Amendment）として以下の内容が導入されています（下線部が追加された箇所）。

4. 組織の状況

4.1 組織及びその状況の理解

組織は、組織の目的に関連し、かつ、そのXXXマネジメントシステムの意図した結果を達成する組織の能力に影響を与える、外部及び内部の課題を決定しなければならない。組織は気候変動が関連する課題かどうかを決定しなければならない。

4.2 利害関係者のニーズ及び期待の理解

組織は、次の事項を決定しなければならない。

- XXXマネジメントシステムに関連する利害関係者
- それらの利害関係者の、関連する要求事項
- それらの要求事項のうち、XXXマネジメントシステムを通して取り組むもの

注記 関連する利害関係者は、気候変動に関する要求事項をもつ可能性がある。

3. 追補の意図

この変更の意図は、MSの有効性の観点から他のすべての課題に加えて気候変動の課題を組織が考慮することを確実にすることです。4.1及び4.2の要求事項の全体的な意図に変更はありません。

追補は、気候変動がMSの中で考慮されていることを保証し、社会にとって気候変動が、組織に考慮するよう要求するのに充分、かつ重要な外部要因であることを示しています。このため、気候変動はMSの各構成要素にさまざまな影響を与える可

能性があることに留意することが大切です。例えば、品質MSに対する影響と労働安全衛生MSに対する影響は大きく異なる可能性があります。IAFとISOでは、極めて重要なテーマである気候変動への配慮を加えることは非常に重要であるとしています。しかし、MSS（management system standard）は常にMSに影響を与えるすべての課題を組織が考慮する必要性を含んでいることを示しています。したがって、MSSを導入している多くの組織は、既に気候変動に配慮していることになります。

4. 追補の理解

① 4.1 組織及びその状況の理解

「組織は気候変動が関連する課題かどうかを決定しなければならない」とあるので、前段の要求事項で決定した課題のうち、気候変動に関した課題は何かを決定する必要があります。異常気象の原因となる要因の一つに二酸化炭素などの温室効果ガスがあるので、外部の課題の例には、洪水や大雪による交通遮断に伴う納期遅れ、社会の温室効果ガスの低減のニーズなど、また内部の課題には、省エネ製品の設計・製造、輸送車両の二酸化炭素排出量の削減、再生可能エネルギーの導入などが考えられます。

② 4.2 利害関係者のニーズ及び期待の理解

「注記 関連する利害関係者は、気候変動に関する要求事項をもつ可能性がある」とあるので、利害関係者によっては、例えば、省エネ設計など顧客が気候変動対応を求めるケースがあり得ます。組織は利害関係者の要求事項を理解し、それを決定する必要があります。

4. 組織の対応

組織は、自社のMSの開発、維持、有効性において、気候変動の側面とリスクを考慮していることを確認する必要があります。気候変動に関し、他の課題と同様に関連性があるかどうかを判断し、関連性がある場合は、MS規格の範囲内におけるリスクの評価の中で考慮する必要があります。

組織が、複数のMS（品質MSと労働安全衛生MSなど）を運用し、気候変動が関連していると判断した場合、それぞれのMS規格の範囲内で考慮しなければなりません。

エイエスアール主催

企業様向け ISO関連教育サービス

決まった時間に講師が解説するセミナーと、自由な時間に自分のペースで学べる学習動画（eラーニング）が、自分のスタイルに合わせて選べます。

▶ ISO関連セミナー（2025年1月～2025年3月）

内部監査員養成セミナー 1日/2日 ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001・ISO45001

ISO 規格要求事項の解釈、内部監査員に必要な基礎知識と技能を実践的な講義と演習で学習します。

集合セミナー

1日

品質	東京	1月 21日(火)	環境	東京	1月 22日(水)
	名古屋	2月 3日(月)		名古屋	2月 20日(木)
	大阪	2月 19日(水)		大阪	3月 26日(水)
	大阪	1月 9日(木)		大阪	1月 10日(金)
労働安全	大阪	2月 5日(水)	情報	東京	2月 7日(金)
	大阪	1月 16日(木)		東京	1月 15日(水)
労働安全	東京	2月 6日(木)		東京	2月 18日(火)
	東京	1月 23日(木)		東京	3月 11日(火)

URL https://www.armsr.co.jp/asr_pc/internalaudit/internalaudit.html

ISO入門セミナー 半日 ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001

「ISOとは何か」から始まり、マネジメントシステム規格がどのようなものかといった、ISOの基礎を解説するセミナーです。

WEBセミナー

品質	2月 12日(水)	時間
環境	1月 14日(火)	9:00 ～ 12:00
情報	2月 13日(水)	

URL <https://www.armsr.co.jp/mss11.html>

規格ポイント解説セミナー 半日 ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001

規格要求事項のポイントについて、半日で解説するセミナーです。規格要求事項を勉強したいがあまり時間が取れない方にお勧めします。

WEBセミナー

品質	2月 12日(水)	時間
環境	1月 14日(火)	13:30 ～ 16:30
情報	2月 13日(木)	

URL <https://www.armsr.co.jp/mss20.html>

環境側面解説セミナー 1日

規格要求事項について、各箇条の意図や要求事項を満たすためにすべきことなどを解説。要求事項について理解を深めるためのセミナーです。

集合セミナー

日程 1月28日(火)

URL <https://www.armsr.co.jp/mss12.html>

規格要求事項の解説セミナー 1日 ISO9001・ISO14001

規格要求事項について、各箇条の意図や要求事項を満たすためにすべきことなどを解説。要求事項について理解を深めるためのセミナーです。

集合セミナー

品質 1月 27日(月)

環境 2月 17日(月)

URL <https://www.armsr.co.jp/mss21.html>

講師派遣型セミナーのご案内

講師が組織様にお伺いし、セミナーを行う「講師派遣型（出張）セミナー」も承ります。

「決まっている日程や場所では参加しにくい」という組織様におすすめのセミナーです。

詳細につきましてはホームページにてご確認ください。
https://www.armsr.co.jp/asr_pc/onsite/

▶ ISO学習動画（eラーニング）

新規講座が順次開講し、約30本のコンテンツをご用意しています。新入社員むけの社員教育プログラムもどうぞご利用ください。

講座名	視聴時間
ISO関連講座（下記以外にも20以上の講座がございます）	
ISO入門セミナー ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001・ISO45001	1.5時間
規格ポイント解説セミナー ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001・ISO45001	2.5時間
内部監査員 養成講座 ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001・ISO45001（※修了証発行）	6時間

NEW

ピーター・F・ドラッカーのマネジメント理論とISO9001

4.5時間

ISO 9001の要求事項と関連するドラッカーのマネジメント理論を学びます。戦略計画に焦点を当て、方針や戦略を示す重要性や、仕事の生産性を向上させるための方法など、効果的な組織運営やプロセス管理に必要な要素を包括的に解説します。主に経営層や部門管理者、ISOを取得している企業の方へ向けた講座です。

URL <https://www.armsr.co.jp/websemi.html>

※視聴時間は、おおよその時間です。規格によって若干異なります

セミナーや学習動画の詳細と最新情報は、ASRトップページのオレンジ色のバナー（下図）かURLからご確認ください。
※お申込みはホームページのWEBフォームからお願いいたします。

<https://www.armsr.co.jp/ac/>

セミナー・学習動画（eラーニング）に関するお問い合わせはこちら
TEL:03-3666-8624 E-mail:seminar@armsr.co.jp



いつでもどこでも、パソコンやスマートフォンで、空いてる時間に、
自分のペースで、何度でも繰り返し学習できます。

**QMS/EMS
ISMS/OH&SMS**
ISO 入門セミナー

ISOを初めて学ぶ方に、「ISOとは何か？」から規格要求事項について概要を解説します。



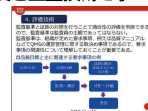
**QMS/EMS
ISMS/OH&SMS**
規格ポイント解説セミナー

規格要求事項の用語や意味について、ポイントを短時間で解説します。



**QMS/EMS
ISMS/OH&SMS**
内部監査員養成講座

内部監査員として必要な基礎知識、規格要求事項の概要と監査技術を学べます。



修了証発行

**ピーター・F・ドラッカーの
マネジメント理論とISO9001**
ISO9001の要求事項と関連するドラッカーの
マネジメント理論を解説します。

タイプ	対象	内容
タイプ A	基本	マネジメント理論の基礎知識
タイプ B	基本	マネジメント理論の応用知識
タイプ C	基本	マネジメント理論の応用知識
タイプ D	基本	マネジメント理論の応用知識

QMS/EMS/ISMS/OH&SMS
ISO 基礎講座プログラム セット

- ・ISO入門セミナー
- ・規格ポイント解説セミナー
- ・内部監査員養成講座

上記がセットになったパッケージです。

※EMSセットには「環境側面解説セミナー」が付きます。

お申込みURL <https://www.armsr.co.jp/websemi.html>

ASR 学習動画

検索



**エイエスアールの
スタッフ紹介**
仕事もプライベートも



氏 名：高橋 ふたば（たかはし ふたば）
所 属：認証部
趣 味：語学・観劇・ボルダリング

はじめまして、認証部の高橋ふたばと申します。普段は、申込や変更申請の確認に加え、認定機関対応、書類作成、そして登録範囲の英文確認を担当しております。

学生時代に英語で論文を読んでいただけの、実務的な英語を知らない私はその業務を任されたときに嬉しく思いました。

実際、業務は非常に充実しています。「英文確認おねがいします。」と依頼されるのは、半導体集積回路？有機溶剤？メッキ加工？ホウ素？と学生英語で出会わないものばかりでした。そして、アルミの蒸着。この時人生で初めて「蒸着」という日本語に出会いました。こうして一年半、英訳に悩むことにも慣れたある日、友人から久しぶりの連絡がありました。「同人誌の題を英語に訳してほしいんだけど、お願いできる？」と。

勿論快諾しました。多岐にわたる製品の製造も、施工も、サービス提供に関する語も英訳してきた私に死角はありません。「で、題名は何？」「死体埋めアンソロジー！」。物書きは時に突飛です。

ふと小学生の時、「まえ、ならえ！は英語でなんていうの？」と無邪気に質問してきた同級生を思い出しました。子供のころから英訳を聞かれる単語はたいてい予想の斜め上を行きます。

自分の名誉のために明記しましょう。私は正しい英訳を渡し、礼儀正しい友人はお礼にアイスクリーム券を贈ってくれました。

確かに公私関係なく、幅広く私は英訳に応えます。しかし、仕事でアイスクリーム券は要求しませんが、でも、もう少しお手柔らかにしてくれても良いのではないかなと思う今日この頃です。

発行元：エイエスアール株式会社

本 社：〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-10-15
TEL 03-3666-8757(代) 03-3666-0478(営業部)

名古屋支社：〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4-2-5
TEL 052-533-1822

名古屋第二支社：〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄4-3-26
TEL 052-211-7102

大阪支社：〒541-0053 大阪府大阪市中央区本町4-5-16



品質・環境・労働安全衛生 情報セキュリティ

★次回発行は2025年3月の予定です。(年4回発行)
皆様からのご意見、ご感想をお待ちしております。

E-mail otoiawase@armsr.co.jp

ASR ISO

検索